平成 28 年 4 月 27 日
飯田市議会次期総合計画検討委員会
資料　No. 1

「いいだ未来デザイン 2028」（次期総合計画）原案

平成 28 年 4 月 27 日

飯田市総合政策部企画課

―― 目　次 ――

地区別懇談会 ……P2

1　地区別懇談会の目的

2　地区別懇談会の取組内容

3　地区別懇談会の中間報告

4　地区別懇談会の主な意見

分野別懇談会 ……P5

1　分野別検討の位置づけと役割について

2　評価の進め方について

3　第5次基本構想基本計画の政策評価のまとめ

飯田市版総合戦略の策定の経過 ……P8

いいだ未来デザイン2028 ……P9

1　30年先の未来を見据えた時代認識

2　受け継がれてきた「飯田の強み」「飯田らしさ」

3　いいだ未来デザイン2028の全体構造

地区別懇談会

１　地区別懇談会の目的

人口減少が与える影響、人口流動化時代における可能性を市内 20 地区ごとに分析、認識したうえで、地区が実現したい将来像を共有し、その実現に向けて地域全体で取り組む「行動計画づくり」を進めます。

２　地区別懇談会の進め方について

（１）地区の考えや思いを未来デザイン会議へつなぐ【第１段階の取組】

ア　検討の方法

将来の人口変動が及ぼす変化を具体的にイメージするための地区ごとの分析資料として、「地区別人口予測プログラム」等を活用しながら、地区の未来ビジョンの検討を進めました。

イ　検討の内容

Ⅰ　人口変動による影響

人口変動の各地区への影響はどのようなことが予想されるか
地区基本構想の実現に向けて、人口変動による影響はどのようなものが考えられるか

Ⅱ－１　地区未来ビジョン

人口変動による影響を踏まえながら、「これだけは守りたい」「これだけは繋ぎたい」など、実現したい地域の暮らしの姿はどのようなものか

Ⅱ－２　地区目標人口

地区の未来ビジョンを実現するための人口規模はどのようなものか
30年後（2045年）を見据えた中で、12年後の人口規模の検討

Ⅲ　未来ビジョンを実現する戦略（道筋）

未来ビジョンの実現に向けた地域の取組みの戦略（道筋）
30年後の理想的な「働く・関わる」「学ぶ・育てる」「住む・交わる」「老いる・直す」「つくる・残す」を実現するための方向性

Ⅳ　未来ビジョンを実現するための計画

未来デザイン会議、他地区の地区別懇談会、政策分野別の検討の中間まとめ等の状況を踏まえ、「地区未来ビジョンを実現する戦略」に基づく計画を立てる

ウ　地区別懇談会の中間報告

検討の内容におけるⅠ～Ⅲについて地区から提出された中間報告は、未来デザイン会議に示し、飯田市の未来ビジョン策定の中に活かしました。

（２）　ビジョン実現に向けたムトス活動を生み出す【第２段階の取組】

28 年度は、未来ビジョン実現に向けた地域のムトス活動を生み出す１年間とし、28 年度末までに地区の具体的な取り組みなどをお聞きします。

次期総合計画策定に向けた地区別懇談会の開催計画 （平成27年10月末日現在）

●：会議の開催

	検討組織	7月	8月	9月	10月	11月
橋北	検討委員（各町内自治会から1名づつ若い世代から選出）		8/20まちづくり委員会 8/24地域協議会		10/22第1回	第2回
橋南	自治会長代表17　他に個人より自由意見を募集する		8/12三役会 8/18自治運営委員会	9/7アンケート依頼 9/10三役会 9/15自治運営委員会		
羽場	羽場地域協議会(有志委員または推薦)＋保育園保護者会、＋所長・公民館主事・保健師計20名程度			9/24第1回		
丸山	丸山まちづくり委員会役員（三役、各委員長、相談員）、丸山地域協議会委員（数人）、各種団体代表（消防団分団長、日赤奉仕団分団長、民生児童委員長、青壮年会長、婦人会長）、地元市議会議員、公民館役員、子育て世代、市役所職員　（合計27名）	まちづくり三役会	本部委員会 8/26第1回	9/28第2回	第3回	第4回
東野	東野まちづくり会議役員・委員会委員、東野地域協議会、各種団体（消防団、連合青壮年会、PTA）		8/24地域協議会	9/30第1回	10/16第2回 10/22第3回	10/27第4回
座光寺	自治会役員、商工会議所役員（1）、民生児童委員（1）、消防団員（1）、日赤奉仕団役員（1）、壮年団員（1）、小学校PTA（1）、保育園PTA（1）、農業委員（1）、認定農業者の会（1）、元善光寺（1）、公民館委員（2）			9/9第1回 10/2第2回	第3回	
松尾	まちづくり委員会役員10名 各種団体代表11名（消防団、日赤奉仕団、民生児童委員協議会、壮年会、小・中学校PTA、保育園保護者会、商工会議所松尾支部、松尾婦人会、農家組合）			9/7第1回 9/30第2回	第3回	
下久堅	まちづくり委員会委員及び各委員会役員、センター職員		委員会毎の検討（自治委員会、生活安全委員会、健康福祉委員会、環境保全委員会、公民館委員会）	9/18（まちづくり委員会）		
上久堅	上久堅まちづくり委員会役員、地域協議会委員その他の住民、自治振興センター職員、公民館主事			3役打合せ 検討委員公募	第1回 第2回	第3回
千代	地域協議会委員（10）、まちづくり委員会四役（4）、農業委員（1）、商工会千代支部（1）、しゃくなげの会（1）、公民館選出（28）、公募（6）、自治振興センター職員（5）合計56名		8/10第1回 8/21第2回	9/8第3回 9/15第4回	10/6第5回	
龍江	龍江地域協議会委員 龍江地域づくり委員会役員（各種団体の長は、役員に含まれている）		8/3地域づくり調整会議 8/11地域づくり定例会	各委員会による検討	地域づくり調整会議 地域づくり定例会	
竜丘	8名～10名程度（機動力の高いメンバーを選定） 地域自治会→（駄科区長）（時又副区長）、公民館（文化副委員長） 各種団体（消防団、保育園保護者会、小学校PTA等）				10/5第1回（区長会） 第2回	
川路	50歳以下の男女16名 保育園・小学校・中学校のPTAから選出			9/2第1回	9/29第2回 10/13第3回	10/28第4回
三穂	三穂地域協議会委員			8/25第1回 9/8第2回	9/15第3回 10/1第4回	
山本	正副会長、区長・区代表、地域振興委員会部会長、所長、公民館主事。（検討を進める中で必要により増員する。）		地域協議会	9/10第1回 9/14第2回	10/7第3回 10/15第4回	10/23まちづくり総会・地域協議会
伊賀良	伊賀良まちづくり協議会自治企画委員、必要に応じて他の委員会委員	7/21自治企画委員会		8/21第1回	9/25第2回	10/19第3回
鼎	まちづくり委員会役員、消防団員、壮年団員、日赤奉仕団役員、小PTA役員等			第1回	第2回	第3回
上郷	上郷地域まちづくり委員会役員、自治振興センター職員、公民館主事			9/9第1回	10/7第2回	
上村	まちづくり委員会、上村保育園保護者、上村小学校保護者、遠山中学校保護者、婦人会、若者で地域を語らまい会、婦人会、霜月祭保存会、高齢者クラブ、4地区自治会、田市消防団17分団、上村振興公社（株）	7/21まちづくり委員会	8/18まちづくり委員会 8/19地区別懇談会全体会	9/3～9/10各地区で懇談会 9/11若い衆	9/18まちづくり委員会 9/26清流祭	
南信濃	まちづくり委員会正副会長、総務委員長、区長代表1、専門委員代表1、若者プロジェクト・福祉プロジェクト2～3		まちづくり委員会		10月上旬 第1回	

地区別懇談会の主な意見

Ⅰ　人口変動による影響

【地域活動の衰退】人口減少により地域活動の維持が難しくなり、コミュニティの低下を招く。個人への負担が大きくなることが予想され、組織の再編の検討も必要となる。

【農業の担い手の不足、遊休農地の増大】農業の担い手が少なくなり、遊休農地が増加する。自然豊かな地方の景観が失われてしまう。

【子供の減少】子どもの数が少なくなり、子どもたちの交流が少なくなる。地域によっては保育園や学校の存続が危ぶまれる。また、地域に子供たちの声がなくなり、活気がなくなる。

【空家の増加と景観の悪化】空家が増加し、景観保全や景観維持の懸念が増える。除雪や災害時の防災対応なども困難となる。

【一人暮らし高齢者の増加】一人暮らしの高齢者が増加し、近所での支えあいも困難となる。

【商店街の衰退】地元の商店が衰退し、買い物が困難となる。

【伝統文化の継承困難】地域の伝統・文化祭りの維持が困難となり、後世に伝えていくことが難しくなる。

Ⅱ　地区未来ビジョン

- 豊かな地域資源や、自然環境を守り、美しい景観がある地域
- 伝統文化や地域活動を継承し、地域の絆が深まる地域
- 地域全体で子育てを支える環境が整い、子どもたちの声が響きあう地域
- 若者が住み続け、帰ってこられ、活躍できる地域
- 高齢者が輝き、一人暮らし高齢者や、要介護者が安心して暮らせる地域

Ⅱ　未来ビジョンを実現する戦略（道筋）

【地域活動の維持、地域コミュニティの醸成】

- 地域コミュニティ推進のための交流の場づくりを進める
- 若い世代の住民の意見を反映させ、若者の地域活動への参加を促す。
- 地域の結びつきを強化するために、組合への加入促進に積極的に取り組み、地域全員参加型のまちづくりを実現する。

【遊休農地の活用】

- 遊休農地を活用して中山間地の特性を生かした付加価値の高い特産品の研究や販路の開拓を進める

【子育ての充実・ふるさと意識】

- 子育てしやすい環境の充実に向けた、子どもを見守り育む地域づくりと世代間交流を深める
- 若者が故郷に誇りと自信を持ち、帰ってきたいと思うような活動を推進する

【高齢者の活躍、高齢者福祉】

- 高齢者が健康で、生き生きと活躍し、地域の活性化に役立つことができる環境づくりを進める
- 住民同士で支えあい、地域できめ細やかな取り組みを進めることにより誰もが安心して暮らせる高齢者福祉を推進する。

【地域の伝統文化の継承】

- 地域の資源・伝統文化を保護、活用し、後世に引き継ぐための地域の語り部を育成する。
- 地域の行事の担い手を地区外からも受け入れる仕組みを作る。

【交流人口の拡大】

- 豊かな自然や地域の資源を活用して、リニア開業や三遠南信自動車道全通を交流人口増加に結びつける。
- 先人たちが守り育んできた、伝統文化を生かし、地域の潜在的魅力を開発して交流人口を増大させる

【ＵＩターンの推進】

- コーディネーターの養成、空家活用、効果的な情報発信により、ＵＩターンを地域全体で受け入れる体制づくり

分野別懇談会

１　分野別検討の位置づけと役割について

分野別の検討は、第５次基本構想後期基本計画を振り返ることにより、分野別の成果・評価をまとめ、課題を整理しつつ、新たな視点や発想を持って今後の方向性（有効策）を確認し、次期総合計画における基本的方向及び地方版総合戦略などの個別計画策定へつなげていくこととします。

２　評価の進め方について

⑴　「政策評価のまとめ」の作成【第１段階の取組】

「第５次基本構想基本計画の政策評価のまとめ」（以下「政策評価のまとめ」といいます。）の作成は、段階的に、次のとおり進めました。

ア　自己評価（ステップ１）

施策主管課は、現在の行政評価システムに位置づける「施策マネジメントシート」の様式を利用した第５次基本構想基本計画に係る平成24年度から平成27年度（事中を含む。）の振返りにより、42の施策ごとに成果や課題を確認し、今後の方向性（有効策）をまとめました。

イ　分野別懇談会による意見交換、意見聴取等（ステップ２）

施策主管課の自己評価を基に、分野別に関係する関係者等による意見交換、意見聴取等を行うことにより、外部評価を加え、施策を取り巻く状況の変化、今後の変化の予測を確認しました。

なお、分野別の有識者等の意見交換、意見聴取等の手法は、文字どおりの「懇談会」の開催だけでなく、これまでの実績の中で関係を構築した市民、企業、団体等との意見交換や議論を行える機会（共創の場）を設けることに主眼を置き、インタビューや個別ヒアリングなど柔軟な対応も懇談会の方法の一つとして進めました。

ウ　９つの政策ごとの評価まとめ（ステップ３）

42施策の評価から、さらに上位の９つの政策ごとに評価し、成果や課題等を「政策評価のまとめ（案）」としました。

⑵　未来デザイン会議での確認【第２段階の取組】

未来デザイン会議で出される外部視点での意見等を踏まえ、平成29年３月までに、「政策評価のまとめ」として調書を確定します。

政策	施　　策	施策主管課	取組状況
多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり	1-1 支え、育む産業基盤づくり	産業振興課	10/6～産業振興審議会（意見聴取）
	1-2 未来を見据えた地域産業の魅力、強み、人材の強化	産業振興課	
	1-3 新しい力による新しい産業づくり	産業振興課	
地育力によるこころ豊かな人づくり	2-2 義務教育の充実	学校教育課	校長会ほか関係者ヒアリング
	2-3 高等教育の充実	学校教育課	関係者ヒアリング
	2-4 家庭教育の充実	公民館	10/13　社会教育委員会
	2-5 共に歩む社会づくりの推進	男女共同参画課	関係者ヒアリング
	2-6 スポーツの振興	生涯学習・スポーツ課	スポーツ推進審議会
	2-7 文化芸術の振興	文化会館	関係者ヒアリング
	2-8 学習交流活動の推進	公民館	10/13　社会教育委員会
	2-9 ふるさと意識の醸成	生涯学習・スポーツ課	10/13　社会教育委員会
健やかに安心して暮らせるまちづくり	3-1 心と体の健康づくり	保健課	10/9　社会福祉審議会、医師会、包括
	3-2 医療の充実	市立病院経営企画課	保健課と連携してヒアリング検討
	3-3 共に支えあう地域福祉の推進	福祉課	10/9　社会福祉審議会
	3-4 障害者福祉の推進	福祉課	
	3-5 高齢者福祉の推進	長寿支援課	10/9　社会福祉審議会
	3-6 生活困難者の自立及び支援	福祉課	10/9　社会福祉審議会
	3-7 子どもを産み育てやすい環境の充実	子育て支援課	10/9　社会福祉審議会、医師会、包括 10/14　分科会
暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり	4-1 災害対策の推進	危機管理室	10/5　地域安全委員会
	4-2 交通安全の推進	危機管理室	
	4-3 地域安全の推進	危機管理室	
	4-4 交通機関と道路の充実	土木課	まちづくり委員会会長にアンケート
	4-5 居住基盤の向上	経営管理課	10/　上下水道事業運営審議会委員ヒア 関係団体ヒアリング
人の営みと自然・環境が調和したまちづくり	5-1 緑の保全と創出	林務課	10/6　環境審議会、産業振興審議会
	5-3 環境汚染の防止	環境課	10/6　環境審議会
	5-4 自然とのふれあいと環境学習の推進	環境課	10/6　環境審議会
	5-5 日常的な環境負荷低減活動の展開	環境モデル都市推進課	10/6　環境審議会

	5-6 廃棄物の減量と適正処理	環境課	10/6　環境審議会
	5-7 社会の低炭素化の推進	環境モデル都市推進課	10/6　環境審議会、10/15　再エネ審議会
地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり	6-1 地域資源の発見・資産化	生涯学習・スポーツ課	美術博物館運営協議会歴史研究所運営協議会 10/13　社会教育委員会
	6-3 地域資産の保存・継承	生涯学習・スポーツ課	
自立・連携した地域づくり	7-1 地域情報・課題の相互理解の推進	ムトスまちづくり推進課	関係者ヒアリング
	7-2 自立に向けた住民組織力の向上	ムトスまちづくり推進課	関係者ヒアリング
山・里・街の魅力を高め交流と連携によるグローバルなまちづくり	8-1 交流による高付加価値化・国際化の推進	企画課	関係者ヒアリング
	8-2 三遠南信・中京圏の連携推進	企画課	関係者ヒアリング
	8-3 計画的な空間利用の推進	地域計画課	8/28　都市計画審議会
	8-4 活気ある街づくりの推進	商業・市街地活性課	関係者ヒアリング
	8-5 中山間地域振興の推進	ムトスまちづくり推進課	7 地区会長ヒアリング
市民と共に進める行政経営	9-1 市民参画による協働の促進	ムトスまちづくり推進課	関係者ヒアリング
	9-2 情報共有の促進	広報情報課	関係者ヒアリング
	9-3 良質な行政サービスの提供	人事課	関係者ヒアリング
	9-4 効率的、効果的な行財政運営	財政課	関係者ヒアリング

１　飯田市版総合戦略の策定経過

(1) 第１段階（８月～10 月）

ア　飯田市版総合戦略（たたき台）の作成

次の４つの重点検討課題を出発点として、基本目標、基本的方向、具体的な施策、重要業績評価指標（ＫＰＩ）のたたき台を作成しました。

① 若者が帰ってこられる産業をつくる（しごとづくり）

② 飯田市への新しい人の流れをつくる（人の流れづくり）

③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる（若い世代の希望をかなえる）

④　環境と経済が好循環する低炭素なまちづくり（特色あるまちづくり）

庁内横断プロジェクト

４つの柱のプロジェクト	主管する課等	関係する課等
しごとづくりプロジェクト	産業振興課	産業経済部各課
ひとの流れプロジェクト	産業振興課	産業経済部各課、ムトスまちづくり推進課、地域計画課
結婚・出産・子育てプロジェクト	子育て支援課	健康福祉部各課、市立病院 学校教育課
環境と経済の好循環プロジェクト	環境モデル都市推進課	林務課、商業・市街地活性課、金融政策課、地域計画課

イ　たたき台を基に分野別の関係者に庁内プロジェクトによるヒアリング、意見交換等を行い飯田市版総合戦略（原案）へまとめました。

(2) 第２段階（11 月～12 月）

未来デザイン会議において飯田市版総合戦略（案）を検討しました。

(3) 第３段階（12 月～３月）

飯田市版総合戦略（案）について、議会・市民からの意見をお聞きし、未来デザイン会議で最終のまとめをし、議会へも報告しました。

未来デザイン会議

市民、分野別の専門家、有識者等、産・官・学・金・労・言・の皆さんによる共創の場

平成 27 年 10 月から平成 28 年３月の間に８回開催

	開催日	内　容
第１回	10 月 3 日	リニア時代を見据えた地域の未来（魅力、強み、環境変化）
第２回	10 月 16 日	リニア時代の魅力となるもの【グループ討議】
第３回	11 月２日	リニア時代を見据えた地域の未来【グループ討議】
第４回	11 月 14 日	飯田市版総合戦略（人口ビジョン、総合戦略） 第５次基本構想の分野別振返り、地区別懇談会の検討状況
第５回	11 月 28 日	飯田市版総合戦略、飯田市の真の強み【グループ討議】
第６回	12 月 19 日	未来ビジョンの検討【グループ討議】
第７回	２月６日	いいだ未来デザイン 2028 の検討
第８回	３月５日	飯田市版総合戦略の答申、いいだ未来デザイン 2028 の検討

飯田のあゆみ

〇飯田大火から生まれたりんご並木
〇水引、市田柿など産業の高付加価値化の取組
〇地域ぐるみの子育て、健康づくりの取組
〇地域環境権による分権型エネルギー自治の取組

飯田のＤＮＡ

「ムトスの精神」「復興の精神」「結いの心」

飯田を取り巻く 30 年先の状況

〇リニア中央新幹線の開通

〇世界・日本の人口構造の変化

〇気候変動による環境等への影響

〇新たな価値観を持った若い世代

地区別懇談会

地域の理想の未来を描き、その実現のための検討を市内 20 地区で実施

分野別懇談会

政策分野ごとに、市民の意見を聞きながら、これまでの取組の振返りを実施

未来デザイン 2028 原案

１．30 年先の未来を見据えた時代認識

新たな 12 年のビジョンを策定するにあたり、過去から現在、そして未来の大きな流れの中で、私たちがどのような時代に立ち、どのような次代に向かおうとしているのかを考えてみます。

（１）これまでの飯田の歩みから

○大火や 36 災などの大災害からの復興

昭和 22 年に発生した飯田大火、昭和 36 年に発生した 36 災をはじめ、飯田は度重なる災害を経験しながらも、これによる被害を乗り越えるだけでなく、「りんご並木」や「天龍峡エコバレープロジェクト」など、困難を乗り越えてもう一歩を踏み出す努力を重ねてきました。

こうした精神は、「自主自立の精神」「ムトスの精神」など、広く受け継がれ、様々なまちづくりへの取組につながってきています。

○合併と連携で育んできた多様性・協調のまちづくり

飯田市は昭和 12 年 4 月 1 日に飯田町と上飯田町が合併して誕生して以来、昭和 30 年代から周辺町村との合併を進めてきており、同時に各地区の多様性を残し、特徴あるまちづくりを公民館や自治会、各種団体の活動により生み出してきました。

こうした協調のまちづくりは、全国的にも先進的とも言われる広域連合や定住自立圏の取組につながっており、飯田・下伊那地域は、社会経済情勢の厳しい変化にさらされる中においても、環境や地域づくりなどにおいて、全国的にも特徴ある取組が進められています。

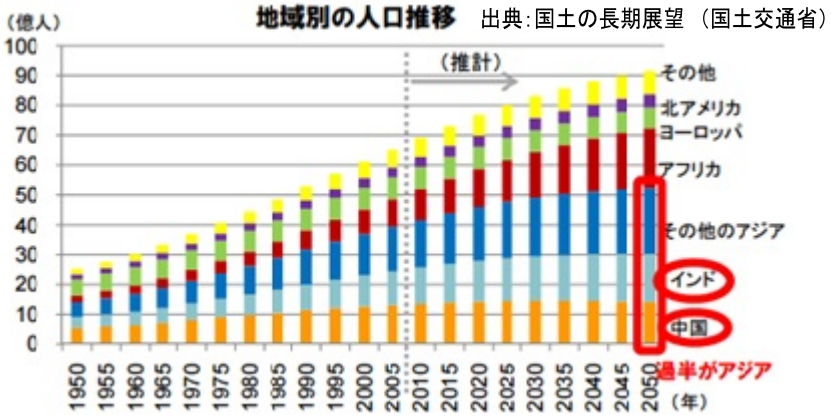
（２）これから 30 年間に予想される変化

①　飯田を取り巻く環境変化（外部環境の変化）

ア．世界、アジア、日本の変化

＜世界、アジア＞

○世界人口は 2050 年には 90 億人と継続的な増加が続く。



日本では、「人口減少、少子化、高齢化」が課題となっていますが、世界全体の人口は 2050 年まで一貫して増加傾向にあり、2005 年の 70 億人から約 90 億人まで増加すると予測されています。

90 億人まで増加する世界人口の過半数は中国やインドをはじめとするアジア地域が占め、世界に占める割合は大きくは変わりません。中国の人口は 2030 年頃をピークに減少に転じる一方で、インドは 2030 年頃に中国の人口と並び、2050 年には 16.1 億人と中国の 14.2 億人となると見込まれています。

○人口増加、中間所得者層の拡大により、食糧・水・エネルギー問題が続く

世界的な人口増加、インドや中国の中間所得者層の圧倒的な購買力により、食糧・水・エネルギー問題が慢性的な課題となります。

また、世界中の地球温暖化対策の取組状況によっては、世界の平均気温は１～２度上昇し、継続的な緩和策と適応策が課題となります。

○世界的な人口構成の変化により、各分野における慢性的な人材獲得競争の激化が進む

韓国、中国、米国、ＥＵなどにおいて、2010 年を境にして生産年齢人口の割合は減少し続けています。また、生産年齢人口の増加が続くインドも、2040 年に減少に転じると見込まれ、アジアでも、人口ボーナス期とも言われる「人口増加率よりも労働人口の増加率が高い状態」が中国、台湾、タイ、シンガポールで 2020 年には終わり、人口オーナス期とも言われる「人口増加率よりも労働人口の増加率が低い状態」となります。

これにより、社会経済の各分野において指導的役割を果たす、高度で専門的な職業能力を有する人材である高度専門職の国境を越えた奪い合いが顕著となるとともに、アジアの生産年齢人口の減少の中で、中国の高齢者が 2030 年には１億人を超えることにより、労働者の獲得競争や介護人材の獲得競争が激しくなることが予想されます。

＜日本＞

○継続的な人口減少、少子化、高齢化

かつて 1967 年に日本は人口１億人を超えましたが、現在のままの状況が続けば、約 30 年後には１億人を下回ります。また、世界で平均年齢の上昇が見られますが、日本の平均年齢は 2030 年には 50 歳を超え（52 歳）、世界で一番平均年齢の高い状況が続いていきます。

○インフラの老朽化

このまま十分な対応を行わなければ、高度成長期に集中投資したインフラの老朽化対策が日本全体で深刻となってきます。

○気候変動の影響、災害の危険性の高まり

異常気象をはじめ、気候変動の影響が激しさを増す傾向もあり、地震を含む自然災害のほか、グローバル化が進むことにより、感染症への対応や災害の影響が、国民生活のほか、ものづくりや食料などの供給、生産体制に影響を与える可能性も高まります。

○圏域の変化、技術の変化、時空の変化

リニア中央新幹線は東京-名古屋間が 2027 年、大阪までは 2045 年に開通を目指しています。30 年後には、三大都市圏が相互に約１時間で結ばれ、スーパーメガリージョンとも言われる 6000 万人の世界最大の経済圏域を形成することになります。

技術の変化においても、生命工学、人工知能、ロボット、自動運転などの革新的技術が発達し、情報通信やエネルギー分野でも大きな変化が予想されます。

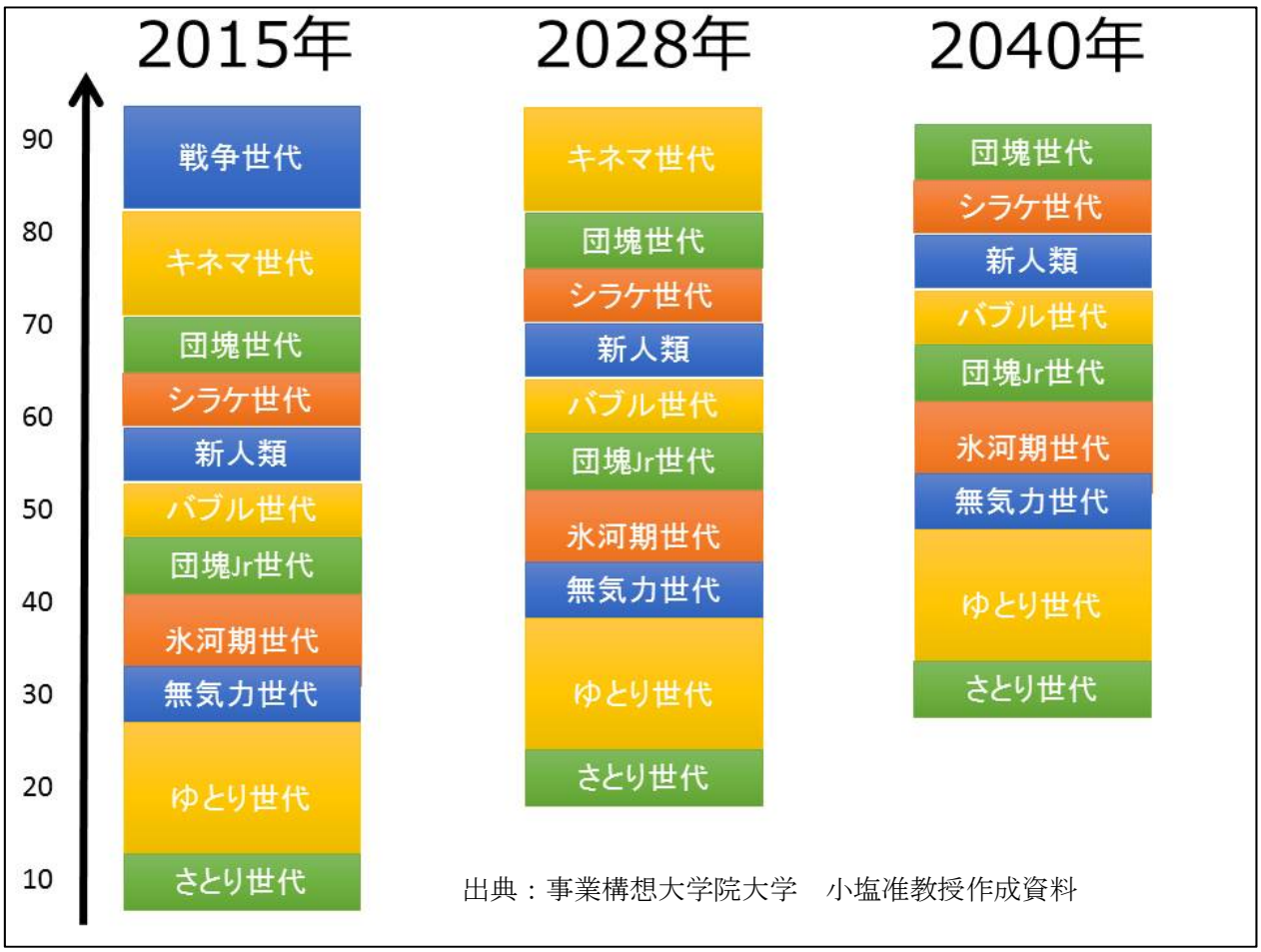
人々の生活空間は、サイバーとも言われるインターネットの中の世界、グローバリゼーションによる世界とのつながりの深化、さらには宇宙空間にも視野が広がってきています。中でもインターネットをはじめ、急激に進化してきた情報通信技術は、人々の生活を豊かにする一方で、個人情報への対応など新たな課題も懸念されます。

○変化のスピードの加速化

新技術の浸透や人口の都市部への集中、あるいはアジアの台頭などにおいて、変化のスピードがさらに加速してきています。

イ．　世代の価値観の変化

世代を超えた価値観を共有するために世代ごとの価値観を知ることが必要です。違いを知ることで各世代が歩み寄ることができます。



出典：事業構想大学院大学　小塩准教授作成資料

○　子育て世代の価値観の変化

2028 年には、現在のゆとり世代が働き盛りで、子育てをしている世代となります。バブル崩壊後の氷河期世代以降は経済に強い日本を知りません。高度経済成長を体験しておらず、非正規雇用が増加し、男女均等雇用が浸透していて、未婚率も高い世代となっています。

日本のゆとり世代は、世界的にも「Z 世代」とも呼ばれています。生まれた時から携帯電話やインターネットに囲まれ、コミュニケーションもデジタル化している世代であり、経済が低迷している時代に生まれてきているため、より安心・安全を優先する傾向があります。

2028 年に 30 代から 40 代となっているこの世代のライフスタイルは「共有化（シェア）」が考えられます。車だけでなく、家や土地などの固定資産を持つという概念から離れていることが考えられます。より自由な働き方を求め、自己実現、家族や趣味を優先する傾向があります。

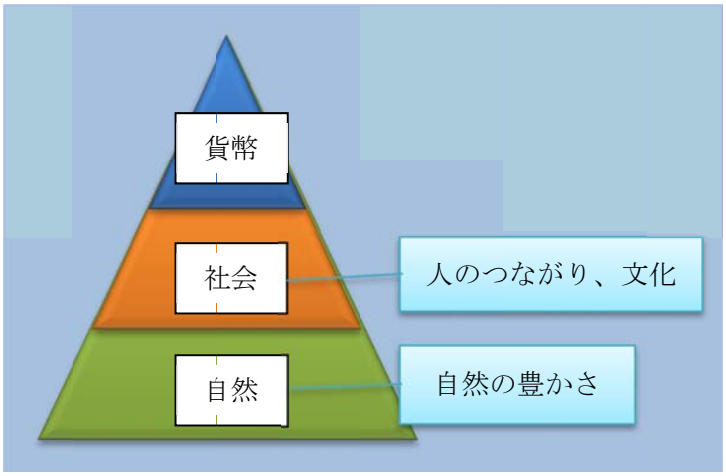
なお、世代は個人の価値観を表現するわかりやすい指標ですが、職業や性別等でも価値観は異なることから、その世代の価値観の参考としてとらえています。

２．受け継がれてきた「飯田の強み」「飯田らしさ」

（１）３要素による飯田の強みの検討

ＱＯＬ（精神面を含めた生活全体の豊かさと自己実現を含めた生活の質）を、お金（貨幣）・社会・自然の３つで都会と飯田を比較すると、飯田は、社会層が強く、人のつながり、自然の層がしっかりとしています。

また、地域経済活性化による自立度の向上の取組により、貨幣ベースの充実にもチャレンジが進められてきています。



（２）具体的な魅力、強み

リニア中央新幹線の開通、三遠南信自動車道の全通を見据えた「飯田の魅力」は、人為と自然、歴史が織りなす様々な魅力が挙げられます。こうした魅力を磨きながら、飯田のブランドとして高めていく必要があります。

●飯田の魅力となっていくと考えられるもの

- **多様性、自立性、一体性**
- **人と人のつながり**
- **子育て環境**
- **ムトスの精神と先進的な取組**（環境、まちづくり、公民館、ツーリズム、りんご並木など）
- **多様なものづくり**（精密機械／金属加工／食品／水引など）
- **成長分野へ挑戦する研究開発力**（航空宇宙分野／メディカルバイオ分野など）
- **少量多品種の農作物**（果樹、花卉など）
- **地域に根付いた伝統文化**（お練り祭／霜月祭り／初午はだか祭／獅子舞フェスティバル
  各神社等の花火／人形浄瑠璃／人形劇ﾌｪｽﾀなど）
- **食文化**（焼肉／和菓子／果物／ﾈｷﾞﾀﾞﾚ／塩いか／五平餅など）
  （南信州牛／千代幻豚／ｻﾌｫｰｸ／ｼﾞﾋﾞｴ／馬刺し／おたぐり）
- **歴史文化の蓄積**（交通の要所／伊那郡衙／城下町／飯田線）
- **豊かな自然、里山の暮らし**（南アルプス＝赤石山脈／天竜川／遠山谷／下栗の郷／天龍峡
  河岸段丘／一本桜／棚田／水など）

（３）飯田の真の強みとなるもの

現在直面している様々な変化の中で、飯田市が活かしていくべき真の強みは、まさに「人の魅力、人と人のつながり」であり、飯田は人が鍵となっていると考えられます。

次代、時代を築いてきたのは「人」であり、特に飯田市は「自主自立の精神（ムトス）」と「結いのこころ」で拓いてきました。

変化の激しい時代を生き抜く力の源泉「学び」、グローバル時代を勝ち抜く資源を磨く「交流」、山積みの課題を解決し時代を切り拓く「共感」により、単に夢を掲げるだけでなく、大火や災害、時代変化を乗り越えてきた飯田の持つ力で次代を拓いていく姿勢が飯田の真の強み（ＤＮＡ）となると考えます。

（３）時代認識　～様々な分野で輝く新たな価値創造の時代へ～

飯田市では、第４次基本構想基本計画で、環境文化都市を都市像として掲げ、特に**「環境の価値」**について先進的に取組み、内外に貢献する先進的なチャレンジにつなげてきました。第５次基本構想基本計画では、魅力的で特徴ある飯田の地域文化をさらに輝かせるため、**「付加価値」**に着目した経済自立の取組を進め、文化的にも経済的にも自立したまちづくりを進めてきました。

世界、アジア、日本が大きく変化する中で、飯田市も人口減少、少子化、高齢化のほか、日本の地方都市が直面する多くの課題を同様に抱えています。しかしながら、飯田市はその歴史の中で、様々な壁を乗り越え、今日に至るまでまちづくりを進めてきました。

そして今、来るべき 12 年後を見据えた時、これまでの「環境」や「経済自立」の取組を継承しながら、新たな生き方の価値づくりを実現する「新しい価値づくり」を、これまで飯田が培ってきた「変える力」で進めていく時代を迎えています。

こうした次代を切り拓く力（精神）で、市民や事業者の皆さんが各々の立場で様々な創意工夫を凝らしながら新たな価値をつくり、未来をこの地で創造していく必要があります。

３．いいだ未来デザイン 2028 の全体構造

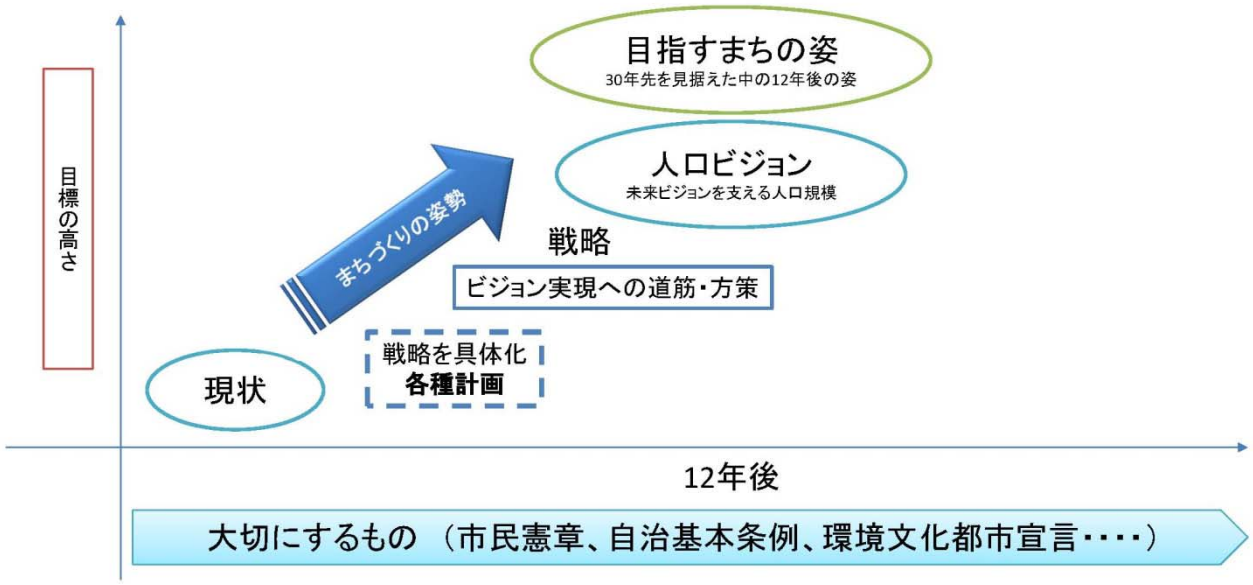
(1)　いいだ未来デザイン２０２８策定の考え方

人口減少が全国的に進行する中で、持続可能な地域づくりは、地方都市における大きな課題となっています。

また、間もなく飯田市が迎えるリニア中央新幹線開通、三遠南信自動車道全通は、全国或いは世界との時間的距離を飛躍的に短縮することになります。

世代の価値観の変化、グローバリゼーションの進展は、多様性を発揮し、内外と交流することによる革新へのチャンスと捉え、私たちが生き生きと輝くためのプラス効果として最大限に享受する必要があります。

この地域が目指すまちの姿を実現するための道のりには、地域の皆さんの知恵と力の結集が必要であり、「いいだ未来デザイン 2028」は、行政、地域、事業者、団体、ＮＰＯ、さらには市民の皆さんが思いを共有し、「当事者意識」を持ちながら、各々の立場で「飯田の未来づくり」にチャレンジしていくためのビジョンとして策定します。



時代認識

飯田の歩み　飯田市は、これまで大火や三大災害からの復興、周辺町村との合併、社会経済情勢の変化等を経験する中で、もう一歩前へ踏み出す努力を重ね、地域の課題を解決してきました。その際、一貫して歴史・風土からなる多様性を尊重しつつ、学びの気質、共感による「結い」の心に根ざした地域づくりがありました。

飯田を取り巻く30年先の状況　世界人口は、アジア地域を中心に継続的に増加し、2050年には約90億人に達します。2030年には中国の人口がピークに達し、その後、インドの人口が増大することで、中間所得層の圧倒的な購買力が増大し、食糧・水・エネルギー問題が慢性化すると予想されます。また、人口構成における生産年齢人口の減少とともに、人財獲得競争の激化が進む見込みです。

国内では、人口減少、少子化、高齢化が進む中で、公共施設等のインフラの老朽化、気候変動がもたらす影響への対策の必要性が顕著となります。一方で、リニア中央新幹線開通により形成される6,000万人の経済圏域（スーパーメガリージョン）が、社会に大きな変化をもたらすと言われています。

飯田市にあっては、混沌として流動的な変化の激しい大交流時代に、ヒト・モノ・カネの資源を活かした戦略的な取組が求められます。

世代の価値観　2028年には、新たな価値観を持った若い世代が、働き盛りで、子育てをする年齢に達し、その後の社会の中心的役割を担うことになります。この世代の価値観が、暮らし方、生き方の変化に大きく影響すると考えられ、価値観の変化を踏まえた地域づくりが求められます。

市民憲章、自治基本条例、環境文化都市宣言等　（30年先の飯田の未来を考えるとき、大切にするもの）

キャッチフレーズ、都市像　（※今後、未来デザイン会議で検討）

未来ビジョン

■　目指すまちの姿　～リニアがもたらす大交流時代に、多様性が輝き、世界に届く価値をみんなでつくる～

これまで飯田が培ってきた文化によって、飯田ならできる、飯田だからできる、みんなでつくりたい「暮らしの姿」「まちの姿」を8つの姿として描きました。これから訪れる変化の激しい時代にあっても、多様な価値観を認め、みんなで新たな価値をつくる魅力ある暮らしが実現されれば、世界に届く特別な価値となります。

人々が暮らしたい、訪れたいと選ばれるまちは、誰もが生き生きと輝き、魅力にあふれています。

これまで飯田は、地域に根付く多様性の中で育まれた価値を発展させ、全国或いは世界にまで通じる文化にしてきました。飯田に生きる私たちが当たり前と感じる暮らしは、移りゆく時代の変化を自らの力にして培った個性的な文化に彩られ、魅力ある暮らしの姿を表しています。これから飯田が迎えるリニア中央新幹線の開通、グローバリゼーションの流れや、世代の価値観の変化の影響を受けてもなお、この飯田の姿を持続するためには、益々、飯田が培ってきた文化を発展させることが大切になります。

だからこそ私たち飯田市民は、みんなの暮らし、仕事、交流など様々な場面で、多様な価値をつくり、またその姿を応援します。多様な価値をみんなでつくり、それぞれの価値を認め合う文化があってこそ、暮らす人も訪れる人も、誰もが共感し、自己実現の喜びを実感できる魅力あふれるまちの姿となります。

そして「飯田ならできる、飯田だからできる」というまちの姿の実現は、時代の流れとともに光を放ち、全国更には世界に届く「可能性」や「勇気」となります。

学びあいにより生きる力と文化を育むまち

●一人ひとりの好奇心に対応する様々な学びの場に多くの老若男女が集い、自分や地域の将来を考える活動に関わっている。その姿に学び、子どもたちもまちづくりに積極的に提案・行動し、社会の一員として地域に貢献している。
●飯田の学びの伝統を生かした人づくりにより、地域に誇りを持った人財が飯田や世界を舞台に活躍している。
●人形劇や伝統芸能に様々な立場で関わる人の想いが地域につながりを産み、文化活動を大切にする心が世代を超え受け継がれている。

私らしい暮らしのスタイルを楽しむまち

●都会との時間距離が大幅に短縮され、豊かな自然環境や文化の中で、都会での仕事と飯田市での豊かな暮らしを両立し、質の高い地域コミュニティの中で自分の存在意義を感じながら、家庭や地域も大事にしていける「私らしい暮らしのスタイル」をつくって楽しんでいる。
●日常生活文化圏を共有している南信州地域や三遠南信地域などの広域的な地域連携の取組が進み暮らしやすさを実感している。
●国内外からの移住者が増え、その一人ひとりが社会の一員として積極的に地域活動に参加し、交流している。

地域の応援で子育ての幸せが実感できるまち

●豊かな自然や文化、特色のある充実した教育や充実した医療のある環境の中で、親が子育てに自信を持ち、地域もみんなで子育ち・子育てを見守り、支え、応援し、地域に子どもの笑い声が広がっている。
●子育てと仕事の両立支援により、保護者が安心して就労できる環境が整備され、家族みんなが、いつも朗らかに暮らしている。

人と人がつながり、安全安心に暮らせるまち

●災害に強い社会基盤の確保と、最悪のシナリオの予測と備えにより、市民の生命、財産が守られている。
情報通信基盤の安定的な整備と飯田の強みである人と人とのつながりにより地域の中で一人ではないと実感し、穏やかに安心して暮らしている。
●中心拠点、広域交通拠点、観光拠点がつながり、住む人をやさしく包み、国内外から来る人をあたたかく迎え入れている。

健やかに生き生きと暮らせるまち

●多世代の交流のつながりや一人ひとりの知恵や力を生かせる緩やかで程よいコミュニティにより、社会と関わり地域に貢献しながら、支えられ、見守られ、生涯を通じて自分らしい健康な生活を送っている。
●市民、民間事業者、行政のつながりによる「介護、福祉、医療の連携体制」が整備され、高齢になっても安心した暮らしを送っている。

人と自然が共生する環境のまち

●一人ひとりが身近にある豊かで貴重な自然の恵みを実感し、市民自らが考え、行動する環境活動によって、地球にやさしい暮らしを実践している。
●気候変動の影響による自然災害、生態系全般への影響、健康への被害、農作物への影響を緩和し、適応していく取組が進んでいる。

地域の誇りと愛着で20地区の個性が輝くまち

●地域固有の自然や文化が持つ価値をみんなが認め合い、それらが大切に保存継承され、地域づくり、人づくりにも活かされている。
●地域を思う気持ちを大事にして、自分の住む地域に誇りと愛着を持ち続けることで、地域の価値が再発見され、個性となる。
●その一つひとつの個性を大切に互いに高め合いながら、飯田の魅力に磨きをかけている。

持続的で力強く自立するまち

●多様な産業の発展とともに新産業の創出や地域産業の高付加価値化への挑戦を応援し、世界に発信できる地域ブランドがつくられている。
●特色ある地域産業の発展により、若者の地元回帰や定着化が進み、地域産業の担い手として飯田を舞台に活躍している。
●「人的ネットワーク」をベースにした「知の拠点」で、様々な研究開発が行われ、国内外に新たな価値を発信している。

■　飯田のまちづくりの姿勢　～飯田が持つ可能性を信じて、多様な主体が行動する姿勢～

私たち飯田市民は、学びによる物事の本質を理解する気質を持ち合わせ、時代の動きの節目に変化を取り入れて独自の文化を紡ぎ、多様で寛容な質の高いコミュニティを形成してきました。昭和22年の飯田大火後の復興の際には、地元中学生の自発的な取組により、りんご並木がつくられ、その精神は人形劇のまちづくりなど様々なムトス活動に広がっています。産業面では、元結に改良を加え、光沢のある丈夫な製品を作り出す水引産業に始まり、食品産業、近年では市田柿の高付加価値化や航空宇宙プロジェクトなど地域経済活性化プログラムによる多様な産業政策を展開しています。また子育て支援や健康づくりなど協働による暮らしやすい地域づくりが進み、さらに地域環境権による分権型エネルギー自治の取組は、先進事例として全国的な注目を集めています。これら飯田の特徴的な取組は、ムトスの精神に基づくものであり、飯田が持つ可能性です。この精神をリニア時代を担う若者たちに引き継ぎ、多様な主体の行動姿勢によって「目指すまちの姿」の実現を目指していきます。

変化の激しい時代を生き抜く力の源泉　「学び」

変化のスピードが加速することから、変化に対応する行動が求められます。

飯田のまちづくりの姿勢は、学ぶことにあります。物事の本質を理解し、新風を取り入れて創意工夫することにより経験を積み重ね、応用する力を身につけます。私たちは、変化の激しい環境にあるからこそ、飯田で培われた学びの土壌で一人ひとりの「個」の力を蓄えることによって、地域全体で次代を生き抜いていきます。

グローバル時代に魅力を放つ価値の創造　「交流」

国際化、世代の価値観の変化が進む中では、個性を磨き、存在感を示すことが必要となります。

飯田のまちづくりの姿勢は、交流することにあります。広く交流しながら、内と外の地域を結び、相互を理解し、融合することにより、新たな価値をつくります。私たちは、大交流時代にあるからこそ、積極的な交流から生み出される飯田の強みや新たな価値を磁石として、世界に届く存在感を示します。

新たな課題を解決し時代を切り拓く「共感」

本格的な人口減少の時代となることから、これから発生する経験のない課題を解決する必要があります。

飯田のまちづくりの姿勢は、共感することにあります。自分たちの地域は自分たちでつくる自主自立の精神「ムトス」や、当事者意識を持って協力し合う「結い」の心で考え、新たな公共（※1）をつくります。私たちは、右肩下がりの時代にあるからこそ、自助・共助・公助を重層的に組み合わせて、地域の価値観を認め、支え合い、共感しながら、実りある未来づくりに挑戦します。

※1　人口減少、少子化、高齢化の中で、必要とされる、地域で見守る子育てや介護、助け合いによる防災力の向上など、公共性の高いサービスを皆が協力し合って実現していくこと。

人口ビジョン

飯田市人口ビジョンでは、定住人口と滞在人口の2つの面から人口を捉えています。定住人口は、地方都市における全国的な人口減少傾向の中で、子育ての希望をかなえるための環境づくりや、若者が帰ってこられる産業づくりの取組などにより、人口減少を最小限に抑えることを基本的な考えとしています。一方、滞在人口は、定住人口に、観光、ビジネス、通学、買い物などで飯田市を訪れる人を加えた人数です。「人口流動化時代」に、飯田の魅力を効果的に発信する取組を推進し、地域外から人を惹きつけ、30年後には定住人口を含め、約18万人の人が行き交う都市を展望しています。

【人口展望】　定住人口　（2028年）96,000人　（2045年）91,000人　滞在人口　（2028年）156,000人　（2045年）182,000人

基本的方向

基本的方向は、目指すまちの姿を実現するための戦略であり、道筋となるものです。地域経済の活性化や環境への取組など多くの先進的に取組んできたものを活かしながら、来年度（平成28年度）に市民、地域や事業者の皆さん、行政が具体的に検討していきます。

市民　｜　地域　｜　NPO　｜　事業者　｜　行政

キャッチフレーズ、都市像 （※今後、未来デザイン会議で検討）

■　目指すまちの姿

～リニアがもたらす大交流時代に、多様性が輝き、世界に届く価値をみんなでつくる～

これまで飯田が培ってきた文化によって、飯田ならできる、飯田だからできる、みんなでつくりたい「暮らしの姿」「まちの姿」を８つの姿として描きました。これから訪れる変化の激しい時代にあっても、多様な価値観を認め、みんなで新たな価値をつくる魅力ある暮らしが実現されれば、世界に届く特別な価値となります。

人々が暮らしたい、訪れたいと選ばれるまちは、誰もが生き生きと輝き、魅力にあふれています。

これまで飯田は、地域に根付く多様性の中で育まれた価値を発展させ、全国或いは世界にまで通じる文化にしてきました。飯田に生きる私たちが当たり前と感じる暮らしは、移りゆく時代の変化を自らの力にして培った個性的な文化に彩られ、魅力ある暮らしの姿を表しています。これから飯田が迎えるリニア中央新幹線の開通、グローバリゼーションの流れや、世代の価値観の変化の影響を受けてもなお、この飯田の姿を持続するためには、益々、飯田が培ってきた文化を発展させることが大切になります。

だからこそ私たち飯田市民は、みんなの暮らし、仕事、交流など様々な場面で、多様な価値をつくり、またその姿を応援します。多様な価値をみんなでつくり、それぞれの価値を認め合う文化があってこそ、暮らす人も訪れる人も、誰もが共感し、自己実現の喜びを実感できる魅力あふれるまちの姿となります。

そして「飯田ならできる、飯田だからできる」というまちの姿の実現は、時代の流れとともに光を放ち、全国更には世界に届く「可能性」や「勇気」となります。

私らしい暮らしのスタイルを楽しむまち

- 都会との時間距離が大幅に短縮され、豊かな自然環境や文化の中で、都会での仕事と飯田市での農ある暮らしを両立し、質の高い地域コミュニティの中で自分の存在意義を感じながら、家庭や地域も大事にしていける「私らしい暮らしのスタイル」をつくって楽しんでいる。
- 日常生活文化圏を共有している南信州地域や三遠南信地域などの広域的な地域連携の取組が進み暮らしやすさを実感している。
- 国内外からの移住者が増え、その一人ひとりが社会の一員として積極的に地域活動に参加し、交流している。

人と人がつながり、安全安心に暮らせるまち

- 災害に強い社会基盤の確保と、最悪のシナリオの予測と備えにより、市民の生命、財産が守られている。
  情報通信基盤の安定的な整備と飯田の強みである人と人とのつながりにより地域の中で一人ではないと実感し、穏やかに安心して暮らしている。
- 中心拠点、広域交通拠点、観光拠点がつながり、住む人をやさしく包み、国内外から来る人をあたたかく迎え入れている。

健やかに生き生きと暮らせるまち

- 多世代の交流のつながりや一人ひとりの知恵や力を生かせる緩やかで程よいコミュニティにより、社会と関わり地域に貢献しながら、支えられ、見守られ、生涯を通じて自分らしい健康な生活を送っている。
- 市民、民間事業者、行政のつながりによる「介護、福祉、医療の連携体制」が整備され、高齢になっても安心した暮らしを送っている。

学びあいにより生きる力と文化を育むまち

- 一人ひとりの好奇心に対応する様々な学びの場に多くの老若男女が集い、自分や地域の将来を考える活動に関わっている。その姿に学び、子どもたちもまちづくりに積極的に提案・行動し、社会の一員として地域に貢献している。
- 飯田の学びの伝統を生かした人づくりにより、地域に誇りを持った人財が飯田や世界を舞台に活躍している。
- 人形劇や伝統芸能に様々な立場で関わる人の想いが地域につながりを産み、文化活動を大切にする心が世代を超え受け継がれている。

地域の応援で子育ての幸せが実感できるまち

- 豊かな自然や文化、特色のある充実した教育や充実した医療のある環境の中で、親が子育てに自信を持ち、地域もみんなで子育ち・子育てを見守り、支え、応援し、地域に子どもの笑い声が広がっている。
- 子育てと仕事の両立支援により、保護者が安心して就労できる環境が整備され、家族みんなが、いつも朗らかに暮らしている。

人と自然が共生する環境のまち

- 一人ひとりが身近にある豊かで貴重な自然の恵みを実感し、市民自らが考え、行動する環境活動によって、地球にやさしい暮らしを実践している。
- 気候変動の影響による自然災害、生態系全般への影響、健康への被害、農作物への影響を緩和し、適応していく取組が進んでいる。

持続的で力強く自立するまち

- 多様な産業の発展とともに新産業の創出や地域産業の高付加価値化への挑戦を応援し、世界に発信できる地域ブランドがつくられている。
- 特色ある地域産業の発展により、若者の地元回帰や定着化が進み、地域産業の担い手として飯田を舞台に活躍している。
- 「人的ネットワーク」をベースにした「知の拠点」で、様々な研究開発が行われ、国内外に新たな価値を発信している。

地域の誇りと愛着で 20 地区の個性が輝くまち

- 地域固有の自然や文化が持つ価値をみんなが認め合い、それらが大切に保存継承され、地域づくり、人づくりにも活かされている。
- 地域を思う気持ちを大事にして、自分の住む地域に誇りと愛着を持ち続けることで、地域の価値が再発見され、個性となる。
- その一つひとつの個性を大切に互いに高め合いながら、飯田の魅力に磨きをかけている。

■　飯田のまちづくりの姿勢　～飯田が持つ可能性を信じて、多様な主体が行動する姿勢～

私たち飯田市民は、学びによる物事の本質を理解する気質を持ち合わせ、時代の動きの節目に変化を取り入れて独自の文化を紡ぎ、多様で寛容な質の高いコミュニティを形成してきました。昭和22年の飯田大火後の復興の際には、地元中学生の自発的な取組により、りんご並木がつくられ、その精神は人形劇のまちづくりなど様々なムトス活動に広がっています。産業面では、元結に改良を加え、光沢のある丈夫な製品を作り出す水引産業に始まり、食品産業、近年では市田柿の高付加価値化や航空宇宙プロジェクトなど地域経済活性化プログラムによる多様な産業政策を展開しています。また子育て支援や健康づくりなど協働による暮らしやすい地域づくりが進み、さらに地域環境権による分権型エネルギー自治の取組は、先進事例として全国的な注目を集めています。これら飯田の特徴的な取組は、ムトスの精神に基づくものであり、飯田が持つ可能性です。この精神をリニア時代を担う若者たちに引き継ぎ、多様な主体の行動姿勢によって「目指すまちの姿」の実現を目指していきます。

変化の激しい時代を生き抜く力の源泉　「学び」

変化のスピードが加速することから、変化に対応する行動が求められます。

飯田のまちづくりの姿勢は、学ぶことにあります。物事の本質を理解し、新風を取り入れて創意工夫することにより経験を積み重ね、応用する力を身につけます。私たちは、変化の激しい環境にあるからこそ、飯田で培われた学びの土壌で一人ひとりの「個」の力を蓄えることによって、地域全体で次代を生き抜いていきます。

グローバル時代に魅力を放つ価値の創造　「交流」

国際化、世代の価値観の変化が進む中では、個性を磨き、存在感を示すことが必要となります。

飯田のまちづくりの姿勢は、交流することにあります。広く交流しながら、内と外の地域を結び、相互を理解し、融合することにより、新たな価値をつくります。私たちは、大交流時代にあるからこそ、積極的な交流から生み出される飯田の強みや新たな価値を磁石として、世界に届く存在感を示します。

新たな課題を解決し時代を切り拓く「共感」

本格的な人口減少の時代となることから、これから発生する経験のない課題を解決する必要があります。

飯田のまちづくりの姿勢は、共感することにあります。自分たちの地域は自分たちでつくる自主自立の精神「ムトス」や、当事者意識を持って協力し合う「結い」の心で考え、新たな公共（※１）をつくります。私たちは、右肩下がりの時代にあるからこそ、自助・共助・公助を重層的に組み合わせて、地域の価値観を認め、支え合い、共感しながら、実りある未来づくりに挑戦します。

※１　人口減少、少子化、高齢化の中で、必要とされる地域で見守る子育てや介護、助け合いによる防災力の向上など、公共性の高いサービスを皆が協力し合って実現していくこと。

■　人口ビジョン

飯田市人口ビジョンでは、定住人口と滞在人口の２つの面から人口を捉えています。定住人口は、地方都市における全国的な人口減少傾向の中で、子育ての希望をかなえるための環境づくりや、若者が帰ってこられる産業づくりの取組などにより、人口減少を最小限に抑えることを基本的な考えとしています。一方、滞在人口は、定住人口に、観光、ビジネス、通学、買い物などで飯田市を訪れる人を加えた人数です。「人口流動化時代」に、飯田の魅力を効果的に発信する取組を推進し、地域外から人を惹きつけ、30年後には定住人口を含め、約18万人の人が行き交う都市を展望しています。

【人口展望 】 定住人口（2028 年） 96,000 人 （2045 年） 91,000 人
滞在人口（2028 年）156,000 人 （2045 年）182,000 人

■　基本的方向

基本的方向は、ビジョン実現に向け、多様な主体が目指すべき方向性をより明確に捉えられるものとして、本年度（平成28年度）に市民、地域や事業者の皆さん、行政が具体的に検討していきます。

未来デザイン会議（飯田市基本構想審議会）委員名簿

	氏　名	団体名	分野	役職
1	外松　秀康	飯田商工会議所	産	監事
2	田内　市人	みなみ信州農業協同組合	産	専務理事
3	高橋　充	飯田観光協会	産	理事
4	三浦　弥生	飯田女子短期大学	学	准教授
5	吉江　宗雄	飯田市金融団	金	代表幹事
6	中島　修司	連合長野飯田地域協議会	労	議長
7	佐々木崇雅	南信州新聞社	言	記者
8	小澤　伸好	丸山まちづくり委員会	地区	会長
9	山田　雅士	上郷地域まちづくり委員会	地区	会長
10	玉置　洋一	南信濃まちづくり委員会	地区	会長
11	中島　雄三	山本地域づくり委員会	地区	会長
12	小島　稔	社会教育委員会議	分野	社会教育委員
13	大澤　和博	飯田市社会福祉協議会	分野	総務課長
14	本田　守彦	飯田国際交流推進協会	分野	副会長
15	松村由美子	ムトス飯田推進会議（子育てﾈｯﾄﾜｰｸ代表）	分野	監査員
16	松澤　肇	飯田市環境アドバイザー連絡会	分野	会長代行
17	佐々木重光	飯田市行財政改革推進委員会	分野	会長
18	中村　俊之	南信州次世代会議、アルプスフォーラム	世代	次世代会議副代表
19	林　郁夫	しんきん南信州地域研究所	学識	所長
20	石神　隆	法政大学人間環境学部	学識	教授
21	中嶋　聞多	事業構想大学院大学	学識	教授
22	大西　達也	日本経済研究所	学識	調査局長
23	中田めぐみ	農山漁村文化協会	学識	編集長
24	小塩　篤史	事業構想大学院大学	学識	准教授